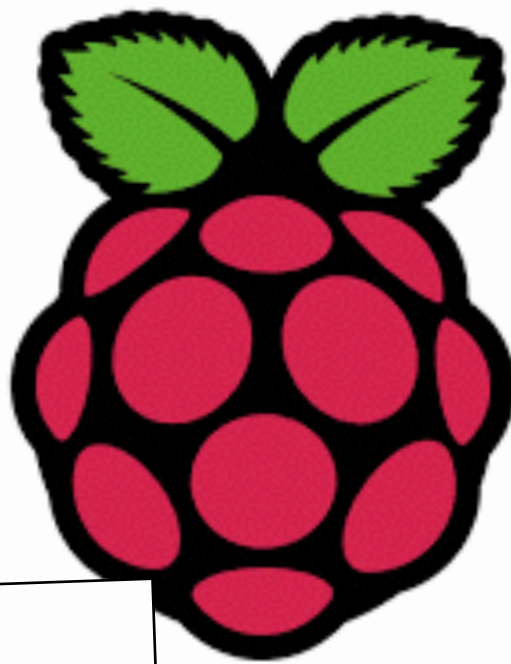


RaspberryPI Diary

author: noritaka



Apache

追記

Security

前回作ったWebサーバで追記しておきたいことがありました。それはセキュリティーに関してです。インターネット環境において完璧なセキュリティーは存在しませんが、誰でもできる簡単な設定はするにこしたことはありません。今回はWebサーバーにおけるエラーの表記についてです。ターミナルを開いてください。ターミナルを起動後は、下の写真のようなコマンドを実行してください。

```
pi@raspberrypi:~ $ sudo nano /etc/apache2/conf-available/security.conf
```

コマンド実行あとは下のようなファイルの中身になっているはずです。注目してほしいのはServerTokensとServerSignatureです。

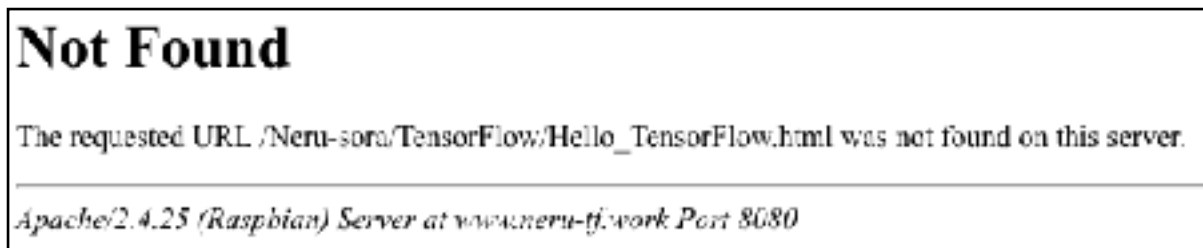
```
File Edit Options Buffers Tools Conf Help
#
# ServerTokens
# This directive configures what you return as the Server HTTP response
# Header. The default is 'Full' which sends information about the OS type
# and compiled-in modules.
# Set to one of: Full | OS | Minimal | Minor | Major | Prod
# where Full conveys the most information, and Prod the least.
#ServerTokens Minimal
ServerTokens OS
#ServerTokens Full

#
# Optionally add a line containing the server version and virtual host
# name to server-generated pages (internal error documents, 404 directory
# listings, mod_status and mod_info output etc., but not CGI generated
# documents or custom error documents).
# Set to 'EMail' to also include a mailto: link to the ServerAdmin.
# Set to one of: On | Off | EMail
#ServerSignature Off
ServerSignature On
```

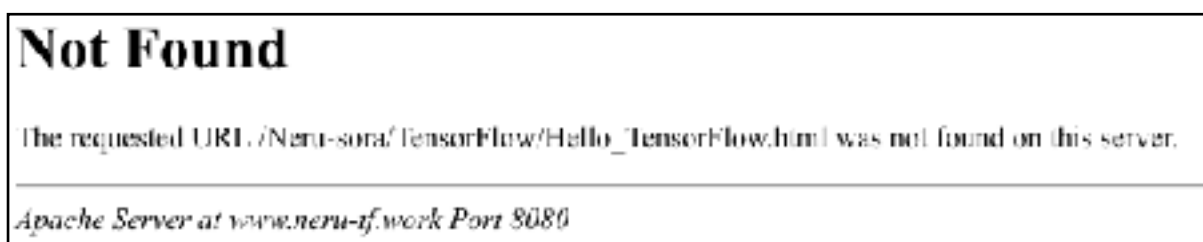
初期設定ではOSとOnになっていると思います。ここで
ServerTokensの"OS"を"**Prod**"に変更して見ましょう。変更後は下のコマ
ンドでapache2を再起動してください。

```
pi@raspberrypi:~ $ sudo /etc/init.d/apache2 restart  
[ ok ] Restarting apache2 (via systemctl): apache2.service.
```

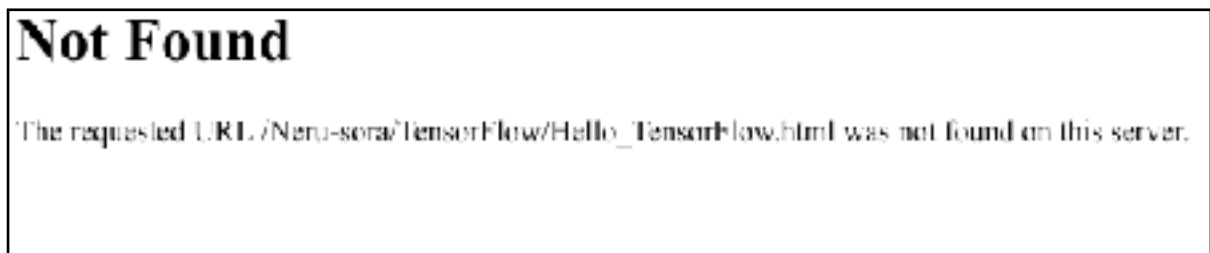
すると初期設定のままだと何も表示できるファイルがない場合は
したの写真のように表示されます。



ですが変更後は次の写真のように表示され、OSの名前(今回は
Raspbian)が表示されなくなりました。



このままでも良さそうですが、サーバのソフトウェア(apache)まで知られたくない！という方はServerSignatureの"On"を"**Off**"に変更し、apache2を再起動してください。すると先ほどのエラーページが下の写真のようにサーバソフトウェアも表示されなくなります。



これはあくまでも最低限のセキュリティーです。より強固にしたい場合はサンドボックスや負荷分散などたくさんのセキュリティー対策があるので活用してみてください。